



さとやま

2月の里といきもの



今年の1月は、前半冷え込んだあと、中旬は南岸低気圧により、南風の吹込みで気温が上がったり、通過後は逆に一時的に冬型の気圧配置が強まり大雪になったりしました。2月もそんな安定しない気象になるのでしょうか。

里では、早くも春を告げる花たちが咲き始めます。



カワラハンノキ



雌花の集まり

ハンノキ広場のカワラハンノキは、花と言っても花卉などはありません。長く垂れさがっているのは雄花の集まりで雄しべの葯が開くと黄色い花粉を風に飛ばして小さな雌花の集まりの雌しべに受粉します。

近くでは、近縁のハンノキも梢の方に同じような形の花をつけます。

どちらもカバノキ科に分類される落葉樹で、湿地を好みます。花粉が飛ぶので、花粉症の原因になることもあります。



ハンノキ



マンサク(赤花)



中央広場のマンサクは、「まず咲く」「真っ先」から名がついたとされ、早春の花として有名です。また、この花がたくさん咲けば、その年は「豊年満作」になるともされています。

マンサクの花は本来黄色です。中央広場のものは、アカバナマンサクと呼ばれる中国原産のシナマンサクの園芸品種のようです。横の小川の向こう岸の私有地には、黄色のマンサクもありますが、日当たりが悪いせいあまり花が付きません。



黄花



ヤブツバキ



ヤブツバキは、暖かい冬には12月頃から花をつけますが、気温が下がると花がなくなることがあります。2月の暖かい日、やっと開きかけたビオトープのツバキに、近くの養蜂箱からやってきたセイヨウミツバチが群がる様子を見かけることがあります。

ツバキは鳥に花粉を運んでもらう鳥媒花のなかまです。鳥がとまっても壊れないよう、花弁と雄しべがしっかりつながっているため、散るときはまるで花がそのまま落ちているように見えますが、枝には雌しべと子房が残っていて、実ができます。まだ花が少ないこの時期、鳥に花粉を運んでもらうために大量の蜜と花粉を用意するヤブツバキの花はハチにとっては魅力的なのでしょう。



落ちた花を切り開くと



がく ↓子房

↑雌しべ

2月はこんな生きものも見られます

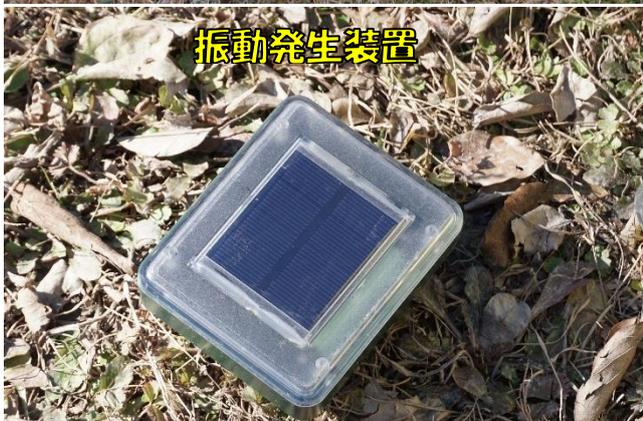
ふきのとうはキク科の**フキ**の花芽です。センター裏の室外機の近くなどで見つかります。日当たりのよい草地では、早くも**ホトケノザ**などの春の花たちが群生して咲いています。暖かい雨の夜の後は、田んぼエリアの水たまりでは、**アカガエル**の卵塊が増えます。



まだまだ気温の低い日もありますが、節分を過ぎるころには日差しはもう春です。こんな春を告げるいきものを探して里を散策してみてください。

さとやまニュース

里では、モグラ対策を試しています。**モグラ**は土中で生活する哺乳類です。地下にトンネルを掘ってその中で生活し、土中の昆虫やミミズなどを食べます。地表近くにトンネルを掘ったときに、土が押し上げられて盛り上がった跡を「モグラ塚」と言い、里でもたくさん見つかります。



そのため、作物の根が切られたり、苗が倒されたり、地盤が緩んだりといった被害があります。しかし、モグラがいるということは、餌となる生き物が豊富で、豊かな自然があることの証でもあります。また、鳥獣保護法によって、許可なく捕獲・殺傷することが原則禁止されています。そこで、いてほしくないところから移動してもらう対策を試験中です。

竹炭をつくる時にできる竹酢液や、音波振動発生装置、ペットボトルの風車による振動等を試しています。装置を見つけても触らないようにお願いします。

1月の行事紹介



「花炭を飾ろう」の講座を1月14日(日)に開催しました。

最初に花炭の材料集めに里山で杉の枯れ枝などを採取し、用意された松ぼっくり、木の実、枯れ葉などと一緒に缶にぎっしり詰め、花炭焼きの準備をしました。

屋外での花炭焼きは、寒い日でしたが風もなく、火を使う作業に適しており、準備した缶を火の上に乗せ、1時間ほどで花炭に焼き上がりました。焼き上がるまでの間に、竹を割って飾りつけ用の器も作り、飾りつけをしました。とてもきれいな素敵な色の花炭は、自宅に飾られることでしょう。

2月の行事予定

※2回以上受講した方には、「竹炭」をプレゼントします！

10日(土)	竹炭焼きを体験してみませんか。Ⅰ (竹切り・竹割り・窯入れ)	20名	AM9:00~11:00	神本 晃 河野 俊治
11日(日)	竹炭焼きを体験してみませんか。Ⅱ (窯炊き)	20名	AM9:00~11:00 (午後も参加可能)	
18日(日)	竹炭焼きを体験してみませんか。Ⅲ (窯出し)	20名	AM9:00~11:00	

内容 ~ 1日目は、里山の竹林の間引きを行いながら竹切りし、窯に入れる大きさに竹を切って、窯に詰めます。

2日目は、窯に火を入れ、火を絶やさずに約7時間焼きます。

3日目は、1週間経過したので窯出しします。新調した炭焼窯で、どんな竹炭ができるか期待しよう！

- ◇ **参加受付**は、各講座3週間前の午前8時30分から先着順に受け付け、来園、または電話受付し、お申込みは本人、もしくはその同居家族までとします。なお、申込者が**4名以下**の場合は開講しません。
- ◇ **参加申込者**は傷害保険に加入するため、小学生以上の方とします。なお、小さいお子さまをお連れいただいても構いませんが「見学扱い」とし、傷害保険の加入はありません。
- ◇ **当日の天候により**、講座の中止・延期、または講座の内容を変更する場合があります。
- ◇ 原則、**参加費は無料**ですが、講座により**材料費は実費**を申し受けます。[講師に直接払う]
- ◇ **各講座の詳細な内容**については、直接ネイチャーセンターにご

西尾いきものふれあいの里ネイチャーセンター

◆ところ 〒445-0031 愛知県西尾市家武町小草3番地 Tel・Fax 0563-52-0266

◆休日 毎週月曜日・祝日の翌日・年末年始 [12/28~1/4] ◆発行 西尾市環境部 環境保全課